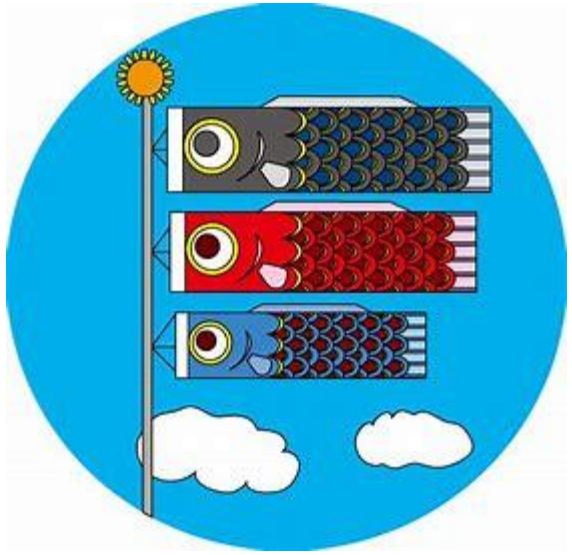
令和４年度

学校経営説明



日時：令和４年５月１０日（火）
１０時２０分～
場所：附属山口小学校　体育館

山口大学教育学部附属山口小学校
校　長　　吉　鶴　　修

学校経営説明の内容

教育理念：子供は未来からの留学生
～よりよい未来社会と幸福な人生の創り手となる力～

１　附属山口小学校の使命とは

２　2030年の未来社会とは

３　2030年に生きる子供たちに求められる力

４　学校経営構想について

（１）「やまぐち学園」としての幼小中一貫教育の取組

（２）附属山口小学校の「教育目標」「重点項目」「研究開発課題」

（３）めざす児童像、学校像、教師像と学校評価

（４）コミュニテイ・スクール「やまぐち学園」の
母体をなす学校運営協議会

１　附属山口小学校の使命とは

　学校は子供たちにとって、現実の社会との関わりの中で、
①毎日の生活を築き上げていく場であるとともに、
②未来の社会に向けた準備段階としての場
でもあると考える。⇒　子供は未来からの留学生

　子供たちには、日々の豊かな生活を通して、未来を創造する力を獲得してほしい。わたくしたちは、そのための附属山口小学校の在り方を探究し、求められる教育や授業の姿を描き、教科等の在り方を研究している。

⇒（未来の社会である）2030年の社会とは・・・
⇒2030年に生きる子供たちに求められる力・・・

２　2030年の未来社会とは

グローバル化→社会の多様性
急速な情報化や技術革新→生活の変化
少子高齢化→労働者人口の減少　　等

↓

将来の変化を予測することが困難な時代（VUCA）

・子供たちの65%は、今は存在していない職業に就く。
（キャシー・デビッドソン氏：ニューヨーク市立大学大学院教授）
・半数近くの仕事が自動化される可能性が高い。
（マイケル・オズボーン氏：オックスフォード大学准教授）

３　2030年に生きる子供たちに求められる力

OECD：2030年に向けた教育「エデュケーション2030」の枠組みより

新たな価値を創造する力

　新たな成長を進めていくうえで、サービスやビジネスモデルなどを考えるとき、他者との協働によって新しい仕組みを生み出していかなければならない。

　そのときに必要なのは、適応力・創造力・好奇心・新しいものに対して受け入れることができるオープンな意識 だとしています。

対立やジレンマを克服する力

　矛盾、相容れないような考えや立場にあったとしても、お互いのつながりや関連性を考慮しながら、統合的に考えて行動していく力。

責任ある行動をとる力

　自分の成果物について責任をもって説明できる力。自分のとった行動を振り返ったり、評価する自己調整できる力が大切になると捉えています。そのときに必要となるのは、責任感・問題解決・適応力も含まれるとしています。

３　2030年に生きる子供たちに求められる力

内閣府：**人間力**

　社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力

①「基礎学力」（主に学校教育を通じて修得される基礎的な知的能力）、「専門的な知識・ノウハウ」を持ち、自らそれを継続的に高めていく力。それらの上に応用力として構築される「論理的思考力」、「創造力」などの知的能力的要素

②「コミュニケーションスキル」、「リーダーシップ」、「公共心」、「規範意識」や「他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力」などの社会・対人関係力的要素

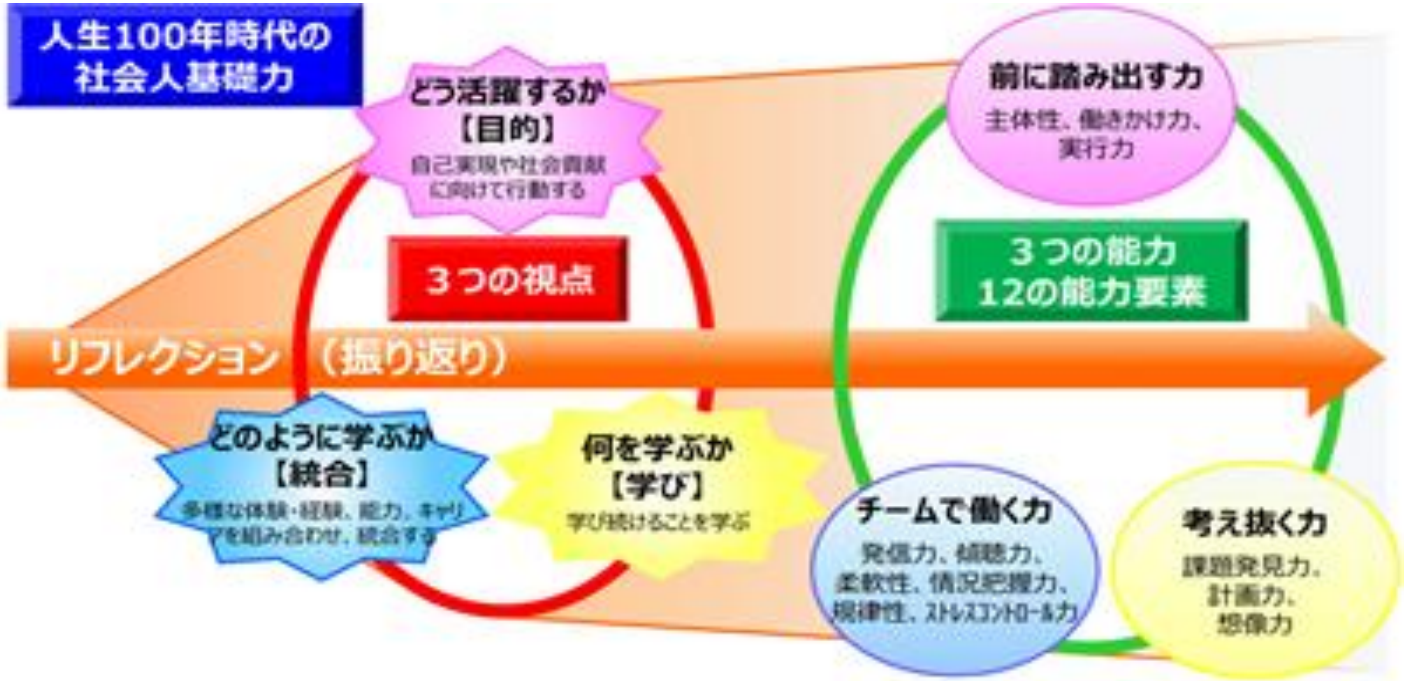
③これらの要素を十分に発揮するための「意欲」、「忍耐力」や「自分らしい生き方や成功を追求する力」などの自己制御的要素などがあげられ、これらを総合的にバランス良く高めることが、人間力を高めること。

３　2030年に生きる子供たちに求められる力

経産省：社会人基礎力

３つの能力（12の能力要素）
・「前に踏み出す力」
・「考え抜く力」
・「チームで働く力」

職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力



３　2030年に生きる子供たちに求められる力

文部科学省：＜生きる力＞―知・徳・体のバランスのとれた力―

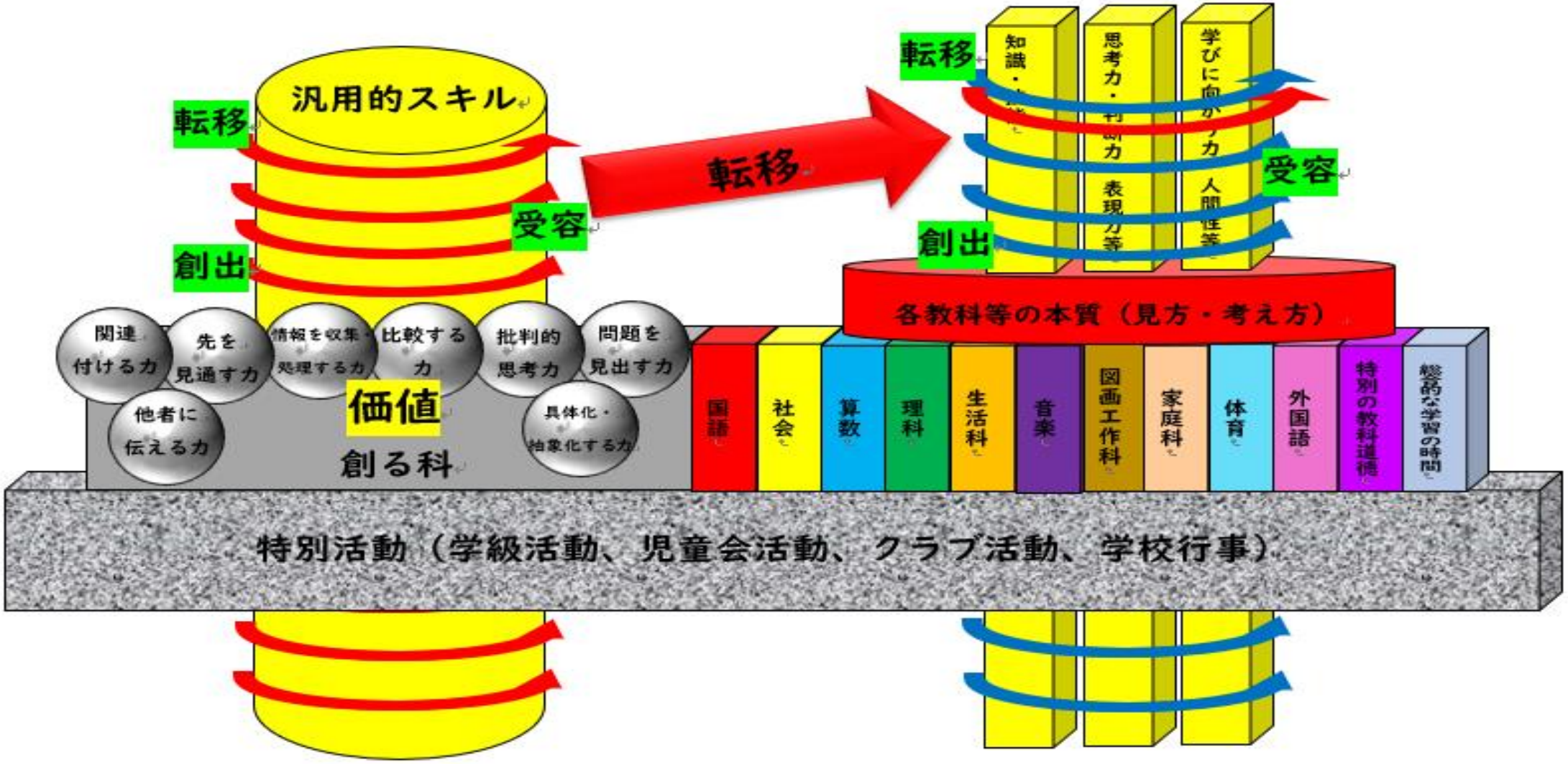
●基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力

＜学力の重要な３つの要素＞
〇基礎的な知識・技能
〇知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力
〇学習に取り組む意欲

●自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や 感動する心などの豊かな人間性

●たくましく生きるための健康や体力 など

３　2030年に生きる子供たちに求められる力



4　学校経営構想について

（１）やまぐち学園としての幼小中一貫教育の取組

（２）附属山口小学校の
・教育目標　・重点項目
・研究開発課題

（３）めざす児童像、学校像、教師像と学校評価

附属山口小学校の研究構想

（４）コミュニテイ・スクール
やまぐち学園の母体をなす
学校運営協議会

山口大学４期中期目標
学校教育法・学習指導要領

令和４年度　山口大学教育学部附属山口小学校　学校経営構想

附属幼・小・中一貫教育の推進

やまぐち学園教育目標：発見し、はぐくみ、かたちにする学びの広場
めざす人間像：よりよい未来を共に創り出す人間

やまぐち学園研究主題：「対象・他者・自己と向き合う子どもの姿」を視点にした保育・授業づくり

山口小学校教育目標：明日につながる学びを創る～学びの楽しさを実感できる学校～

山口県教育振興基本計画
山口市教育基本方針

＜本年度の重点項目＞◆子供が価値を自在に使いこなし、見方・考え方を働かせる授業づくり
◆「山小ベース」に基づく学級・学年・学校づくり（開発的生徒指導）
◆society5.0 の教育の構築（ICT 等を活用した新たな教育スタイル）

研究開発課題：価値の創出と受容、転移をコアにした教科融合カリキュラムに関する研究開発～「創る科」の創設を通して～

め　ざ　す　児　童　像

学　校　評　価　の　実　施　（　年　２　回　）

◇かしこく◇	◇やさしく◇	◇たくましく◇
自らの問いを追究し、学びの価値を見出す子	相手意識をもち、自分自身を律する子	心身ともに健康で、目標に向かって粘り強く取組む子

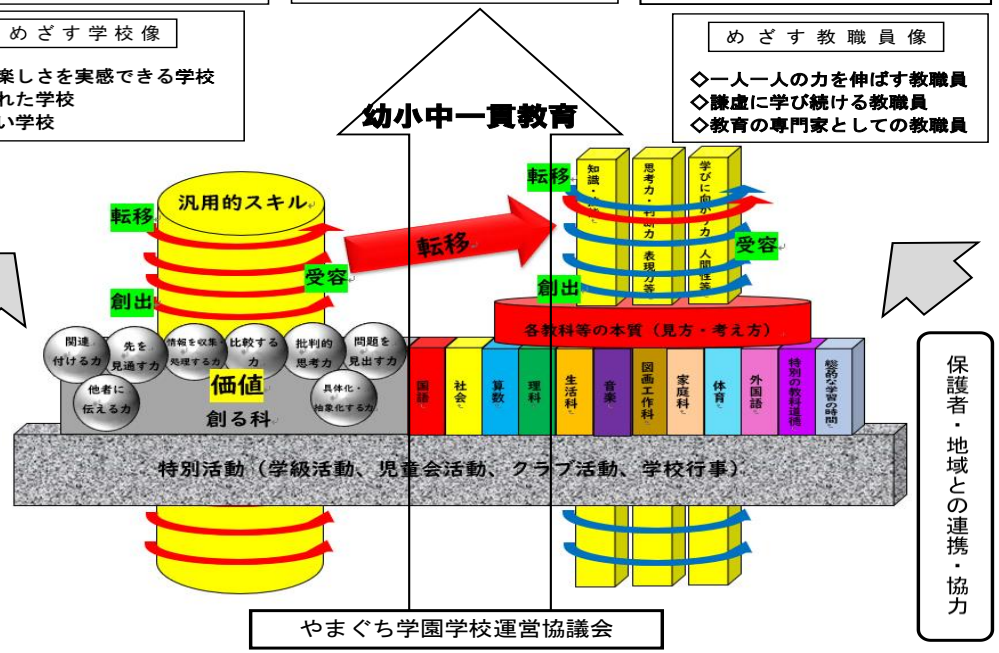
カ　リ　キ　ュ　ラ　ム　・　マ　ネ　ジ　メ　ン　ト　の　実　施

め　ざ　す　学　校　像

◇学ぶ楽しさを実感できる学校
◇開かれた学校
◇美しい学校

め　ざ　す　教　職　員　像

◇一人一人の力を伸ばす教職員
◇謙虚に学び続ける教職員
◇教育の専門家としての教職員



大学との連携・協力

保護者・地域との連携・協力

やまぐち学園学校運営協議会

４　学校経営構想について

（１）「やまぐち学園」としての幼小中一貫教育の取組

山口大学の第4期中期目標・中期計画

やまぐち学園（幼稚園、小学校、中学校）としての一貫教育

＊一貫教育とは：幼小中の教員が目指す子供像を共有し、12年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育（文部科学省：「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」より）

〇めざす人間像：よりよい未来を共に創り出す人間

〇研究主題：対象・他者・自己と向き合う子供の姿を視点にした保育・授業づくり

令和４年度：自己と向き合う子供の姿⇒「離見の見」（自己評価、メタ認知）

→12年間を通じた教育課程の編成（帰りのお話→フリートーク→テーマトーク）

〇５つに分けた子供の発達

第1期：年少・年中　　第2期：年長・小１・小２（小１プロブレムの解消）

第3期：小３・小４　　第4期：小５・小６・中１（中１ギャップへの対応）

第5期：中２・中３

４　学校経営構想について

（２）附属山口小学校の「教育目標」「重点項目」「研究開発課題」

教育目標：明日につながる学びを創る～学びの楽しさを実感できる学校～

●明日につながる学び：今日の学びに納得し、明日への学びに希望が持てること

●つながる：納得から希望への意識の連続

→　子どもたちが「対象」「他者」「自己」と向き合いながら、明日につながる学び（納得と希望の意識の連続）を創っていくことは、よりよい未来を創っていくこと（やまぐち学園のめざす人間像）である。

●学び：各教科等での「学び」と人としての生き方に関わる「学び」

→前者を「学力」、後者を「人間力」

４　学校経営構想について

（２）附属山口小学校の「教育目標」「重点項目」「研究開発課題」

〇学　力：主体的に問いを追究する中で、自らを客観的に見つめ自己調整（セルフコントロール）できる力を育てたい。また、友達と協働し、課題の解決に向け（知識・技能）、粘り強く取り組む（思考力・判断力・表現力等）力を育てたい。
→問題解決能力

ＯＥＣＤ
経産省
文科省

〇人間力：心身ともに健康で、道徳心を培うとともに、相手意識をもって対象や他者とよりよく関わっていくことができる力を育てたい。

内閣府
経産省
文科省

〇学力と人間力のバランスのとれた力を「生きる力」と考える。

４　学校経営構想について

（２）附属山口小学校の「教育目標」「重点項目」「研究開発課題」

教育目標：明日につながる学びを創る～学びの楽しさを実感できる学校～

●学びの楽しさ：「分かった」「できた」「友達に分かってもらえた」など、新たな自分と出会えた喜び

●実感できる：少なくともその行為を通して自身が成長した、あるいはそれが期待できるという確信、もしくはこれに近いものが感得されること

→　「学びの楽しさの実感」は、新たな学びを誘発する源泉と成り得る。学びの楽しさの実感は、自ら学び続けることを動機付けるといってよい。

　だから、学ぶ楽しさを実感できる学校は、明日につながる学びを創る（山口小学校教育目標）ことになる。

４　学校経営構想について

（２）附属山口小学校の「教育目標」「重点項目」「研究開発課題」

重点目標

①子供が価値を自在に使いこなし、見方・考え方を働かせる授業づくり【学力】

→　子供の問いを大切にしつつ、対象・他者・自己と向き合う中で、「創る科」で学んだ「比較する力」や「関連付ける力」、「先を見通す力」などを各教科等の学習で、自在に使いこなして問題解決できる授業づくり→問題解決能力

②「山小ベース」に基づく学級・学年・学校づくり【人間力】

→　行動規範「山小ベース」を醸成し、姿として表出される「さすが山小」を期待する開発的な生徒指導を推進する。→道徳心、対象・他者とよりよく関わる力

③Society5.0（超スマート社会）に向けた教育の構築

→　これからの社会の変化を踏まえ、ICTの活用や持続可能な開発のための教育、STEAM教育など、新たな教育の構築を図る。

４　学校経営構想について

（３）めざす児童像、学校像、教師像と学校評価

めざす児童像

＜かしこく＞自らの問いを追究し、学びの価値を見出す子
＜やさしく＞相手意識をもち、自分自身を律する子
＜たくましく＞心身ともに健康で、目標に向かって粘り強く取組む子

めざす学校像

学ぶ楽しさを実感できる学校
開かれた学校
美しい学校

めざす教師像

一人一人の力を伸ばす教職員
謙虚に学び続ける教職員
教育の専門家としての教職員

カリキュラムマネジメント
　教育課程やめざす児童像、学校像、教師像等をPDCAの中で改善する。

学校評価
　教育課程やめざす児童像、学校像、教師像等を年間２回の学校評価により、学校運営の改善と発展をめざす。

４　学校経営構想について

（４）コミュニテイ・スクール「やまぐち学園」の母体をなす学校運営協議会

コミュニテイ・スクールとは

→　コミュニティ・スクール（学校運営協議会）は、保護者や地域が学校の様々な課題解決に参画し、それぞれの立場で主体的に子供たちの成長を支えていくための仕組みです。

「やまぐち学園」の学校運営協議会

＜機能＞

①　学校運営　学校運営の質の向上

②　学校支援　学校教育の質の向上

③　地域貢献　学校と地域のよりよい関係づくり

＜委員の構成＞

〇保護者　４名

〇地域住民　４名

〇学識経験者　２名

〇設置校の職員　４名

＊学校運営協議会において、各委員の立場から、2030年に生きる子供たちに求められる力を提案していただき、教育活動で具現化している。

まとめ

　子供たちは予測困難な時代と言われる未来に向けて、自らの人生をどのように切り拓いていくのか。
　今、まさに自らの生涯を生き抜く力を培っていくことが問われる中、附属山口小学校では、新しい時代を生きる子供たちにどのような力を身に付けていくことが求められているのかを常に議論し、研究校としての使命を果たそうとしています。